

## 第10回 IUPAC 化学熱力学国際会議に参加して

(群馬大) 滝沢俊治

上記の国際会議が1988年8月29日から9月2日迄ブラハ郊外の国立農業大学を会場にして開催された。ヨーロッパの諸都市の中でもブラハほど頻りに国際会議の開催地に選ばれる都市は珍らしいのではないかと思う。それは都市ブラハの魅力と国際会議を積極的に誘致しようとする国の方針のためであろうか。ともかく美しい都市である。市の中心部を大きく蛇行しながらモルダウ川がゆったり流れ、両欄干に立並ぶ聖者の像で有名なカレル橋から対岸に望むブラハ城の尖塔は日没から夜にかけてはイルミネーションに浮かび上り幻想的光景となる。「ブラハはなぜ美しいのか」という表題の本が数年前在日ブラハ女性により出版されたがその作者の思い入れも理解できる気のする美的に洗練された都市である。

今回で丁度第10回となるこの会議は1969年にワルシャワで開催された化学熱力学国際会議を第1回のもので数え最近では隔年に開かれていることが第9回会議報告(上平, 熱測定, 14, 39(1987))に記されている。今回同伴者を除く参加者総数は426名であり、その国別内分けはアルジェリア2, オーストラリア1, オーストリア8, ブラジル1, ブルガリア4, カナダ7, チェコスロヴァキア71, デンマーク4, 西ドイツ21, フィンランド2, フランス8, 東ドイツ35, ギリシャ1, ハンガリー19, インド1, イラク3, イスラエル2, イタリア10, 日本11, メキシコ1, オランダ7, ニュージーランド3, ノルウェー2, 中国5, ポーランド36, ポルトガル11, ルーマニア6, サウジアラビア1, スペイン29, スウェーデン8, チュニジア1, トルコ1, ソヴィエト59, イギリス8, アメリカ26, 西ベルリン6, ユーゴスラビア6であった。チェコで開かれた国際会議ということもあり全体の半数以上は東欧及びソヴィエトからの参加者であったが、それ以外のところでは化学熱力学の分野に力を入れているスペインからの参加者の多いのが目立つ。今会議の全体講演は2件のみであとはすべて10分科会に分けられた18件の特別招待講演と360件の一般発表であり、組織委員会の選択で後者の約1/3は口頭発表となり残りの2/3はポスター発表であった。各分科会の名称と発表件数は次の通りである。純物質40, 非電解質混合溶液44, 相平衡59, 界面及び表面現象36, 流体および溶液の統計力学28, 高分子系17, 生物系39, 水溶液33, 熱測定およびその他の測定手段1, データー処理15。全体講演は全日程の最初と最後に行われたが、最初の講演はRossini

記念講演と銘打って行なわれたK. S. Pitzer教授(カルホルニア大)による「広い温度及び組成域にわたるイオン性または非イオン性流体」であった。なぜか前回も最初の全体講演は同教授によるほぼ同一主題のものであったことが第9回会議報告に記されている。10分科会に分類された特別招待講演及び一般講演は隣接する3会場(教室)に日程的に振り分けられ、各分科会は1件の特別招待講演(50分)と引き続く一般講演(25分)の順で行なわれた。またポスターセッションの会場は講演会場入口のロビーに設けられ、その日程も関連する講演に引き続いて設定されていることもあり総じて参加者が各自の興味に従って会場を移動するのに大変便利であった。20件の特別招待講演の国別内分けはチェコスロヴァキア3, ポーランド1, ハンガリー1, ソヴィエト3, 東ドイツ1, 西ドイツ2, デンマーク1, オランダ1, アメリカ4, カナダ2, 日本1であり、日本からは阪大の菅教授による「超低周波スペクトロメーターとしての断熱



写真1 会場となった農業大学内の学生寮

熱量計(菅, 松尾)」が発表された。ところで今回の国際会議には実に盛り沢山の Social and Ladies プログラムが用意されていた。照明の美しいキャンパス内の食堂で歓迎カクテルパーティが催され、日本から参加された諸先生とも挨拶を交しなごやかな一時を過ごした。今回の国際会議には若い研究者も出来るだけ多数参加できるようにとの配慮から、宿舎として夏休み中の学生寮が利用できる農業大学が会場として選ばれたとのことであった。そのため宿泊と食事を含む参加費はたった 230 ドルであり考えられないほど安かった。この大学はブラハ市内からバスで30分ほど北西に向った台地に広い敷地を持



写真2 南ボヘミアへのエクスカーシオン風景

ち、食堂や宿舎等の施設は日本の国立大学のものより高級な感じであった。開会日の夜には18~19世紀のチェコ絵画を集めた美術館にもなっている旧貴族の館(?)で歓迎レセプションが催され、白・赤ワインを飲みながら室内楽を聞く豪華な雰囲気のパティーを楽しみ、翌夕も同伴者を含む全参加者が10台以上のバスを連ねて市のモルダウ左岸にあるゴチック様式の教会にオルガンコンサートを聞きに出かけた。会議中日の午後にはやはり全員がバスで南ボヘミアのコノピシ城を見物したあと、ベチーネというひなびた村に出かけ土地の楽士による民族音楽を聞きながら鱒のムニエル等の地方色豊かな料理を味わう底ぬけに楽しいパーティーが催された。その他同伴者のためにはブラハ市内観光、ブラハ城めぐり、チェコの有名な温泉保養地観光等の実に盛り沢山の企画が組まれていた。期間中の食事は大学食堂で用意されたがかなり良いものであった。チェコの料理は日本人の好みに比較的合っているように思う。世界一のうまさを誇るチェコのピルゼンビールを飲みながら語り合った昨夏の思い出がよみがえってくる。なお第11回 IUPAC 化学熱力学国際会議は1990年8月27日から31日迄イタリアのコモ市で開催される計画であり、second circular は今年の10月に発送される予定となっている。本記事を書くに当たりコメントを頂いた上平初穂博士に感謝致します。

## 第7回固体イオニクス国際会議 (SSI-7) 7th International Conference on Solid State Ionics

主催：固体イオニクス学会，国際科学振興財団  
期日：1989年11月5日(日)~11日(土)  
    本会議5日~9日，研究所訪問10日~11日  
会場：箱根 ホテル小湧園  
    (神奈川県足柄上郡箱根町)

研究所訪問：筑波学園都市

内容：

1. Physics and Chemistry of Inorganic Ion Conductors
2. Physics and Chemistry of Organic Ion Conductors
3. Fundamental Studies and Experimental Techniques on Ionic Motion in Solids
4. High Temperature Oxidation of Conventional and Advanced Materials
5. High Tc Superconductors

6. Solid State Sensors for Process Control
7. Application
8. Other Topics

参加予定者：国内 250 名，国外 150 名

参加費 一般 1989年9月1日まで 40,000円  
    学生 1989年9月1日まで 20,000円  
    同伴者 1989年9月1日まで 15,000円

論文申込締切：1989年6月1日

登録期日：1989年9月1日

この国際会議に発表または参加ご希望の方は、下記宛サーキュラー(申込用紙付)をご請求下さい。

〒227 横浜市緑区長津田町 4259

東京工業大学工業材料研究所 内

SSI-7事務局 庶務幹事 阿竹 徹

電話 045-922-1111 内線 2343, 2323

FAX 045-921-1015